

友情のサビーナ・オーケストラ

■ 2006年12月22日

ザ・シンフォニーホール
「友情のサビーナ・オーケストラ」
& 88人のホルンアンサンブル
コンサート



■ 2008年1月11日

ザ・シンフォニーホール
「友情のサビーナ・オーケストラ」コンサート



友情のサビーナ・オーケストラ & アンサンブル・サビーナ 紹介

「友情のサビーナ・オーケストラ」は、世界的なホルン奏者アレッシオ・アレグリーニや、兄でイタリアを代表するトランペット奏者、ヴィニーチョ・アレグリーニなどの音楽家と日本の若い音楽家が2006年に結成。また「アンサンブル・サビーナ」は、このオーケストラメンバーから結成された。

「豊かな音楽は競争によって生まれるのではなく、お互いを人間として尊敬し、助け合う友情から生まれる」をモットーに活動。オーケストラは毎年ザ・シンフォニーホールでコンサートを開催し、イタリアでもコンサートに取り組んでいる。昨年も、9月に25人のメンバーが「インターナショナル・サビ

ーナ・オーケストラ」に招待されて、ローマ、ヴェネツィア、トリノ、ファルファなどで「友情のコンサート」を開いた。アンサンブルは、このようなヒューマンイズムの精神に沿って、「音楽と人権」「音楽と時代精神」などをテーマとしたコンサートに取り組んでいる。



「友情のサビーナ・オーケストラ」に参加している外国人音楽家

■親愛なる友人の皆様へ アレッシオ・アレグリーニ～2006年12月～(第1回コンサートプログラムより転載)

私が19歳の時、兄のヴィニーチョとミラノの街を歩いていて、偶然に松本さんと出会いました。彼は社会の近代化についての様々な疑問を探求するために、ヨーロッパに来ていました。私達はたくさん話し、意見や思想を交換し、人の尊厳に対する考えが同じであることを分かり合いました。人はそれぞれ自分の考えを明確にして、主体的な行動をしなくてはなりません。イタリアではこのことが大切にされています。それはヒューマニズムであり、この考えを松本さんが持っていることが分かり、イタリア人の私はとても嬉しく思いました。音楽も同じで、寛容で気高い演奏から個人個人の考えも伝わってくるものです。このことを基本にして、クラウディオ・アバドと一緒に大きなプロジェクトを組んで仕事を始めました。それは青少年たちが音楽を通して自己表現する場所をつくるのが目的です。

何年もかかって今やっと私達の夢を実現できるようになりましたが、まだ出発地点に立ったにすぎません。私達の大きな目的は、いろんな国々の子どもから、学生、プロの音楽家、先生まで、演奏技術のレベルではなく、音楽を愛する気持ちが同じ人達が集い、意見や音楽の交換をしながら経験を共有することです。「サビーナ・オーケストラ」は音楽を通して気持ちの表現や対話をすすめるところです。音楽は誰にとっても、このように理解できるものなのです。



Alessio Allegri (アレッシオ・アレグリーニ) :ホルン奏者

1972年生まれ。ミラノ・スカラ座及びスカラ・フィル首席奏者を経て、サンタチェチーリア・オーケストラ首席奏者。「プラハの春」国際コンクール優勝、ミュンヘン国際コンクール最高位受賞。ベルリン・フィル、マーラー・チェンバーオーケストラ、ヨーロッパ・オーケストラ、クラウディオ・アバド指揮のモーツァルト・オーケストラ、ルツェルン祝祭管弦楽団の首席奏者及びソリストとしても活躍。2006年より、兄のヴィニーチョ、弟のサビーノと共にイタリア生活文化交流協会と共同で「友情のサビーナ・オーケストラ」を設立し、ホルンのソリストとして、また指揮者として日本やイタリアの各地でコンサートに取り組んでいる。

■友人のみなさまへ ヴィニーチョ・アレグリーニ

～2008年11月～(Vinicio Allegri & 「アンサンブル・サビーナ」コンサートプログラムより転載)

親愛なる友人の皆さん。本日は私たちのコンサートに、ようこそお越しくださいました。私たちの国際的な音楽交流のプロジェクトは、イタリア国内においても次第に発展していく可能性が生まれてきました。私たち(ヴィニーチョ、アレッシオ、サビーノなど)は、音楽活動を通してお互いの人間の尊厳について学び、色んな地域や色んな国々で、その人間の尊厳が確立されることを願って音楽活動に取り組もうと、イタリアにおいて「エレウテラ協会」(ギリシャ神話の神ディオニソスで、“再生”の意)を立ち上げました。そして、このプロジェクトに取り組むようになり、様々な団体や個人やコミュニティー、マスコミなどから注目されつつあります。

私は、日本の若い音楽家の友人たちが、このような音楽の社会的意義を次第に深めていってくれていることを嬉しく思います。日ごろから私は、オーケストラは優れた社会活動であると考え、よく「家を作る仕事」に置き換えて話します。コントラバスは大地、チェロは土台、そして、そこに柱や壁や屋根を受け持つヴァイオリンやヴィオラやトランペットやホルン、フルートなどなどの楽器がアンサンブルを作って家が完成するのです。そのためには、お互いを尊重しあった均整のとれた演奏が必要です。どうか今後とも私たちの交流事業を見守ってください。今日はどうぞごゆっくりお楽しみ下さい。感謝をこめて……。



Vinicio Allegri (ヴィニーチョ・アレグリーニ)

1970年生まれ。サルディニア・カリアリ歌劇場オーケストラ首席トランペット奏者。これまでにリッカルド・ムーティ指揮のミラノ・スカラ座、公共放送RAIの全国交響楽団オーケストラなどのオーディションに合格。多数のオペラ、シンフォニーなどで首席トランペット奏者として、また室内楽団の委員としても活躍。一方、アレッシオ・アレグリーニとともにイタリア各地のコンサートでソリストとして活躍。2006年より「友情のサビーナ・オーケストラ」に参加し、日本各地でもソリストとして演奏をする一方、アンサンブルの指導にも力を注いでいる。

「友情のサビーナ・オーケストラ」コンサート開催にあたっての挨拶

(2006年12月22日 コンサート プログラムより転載)



ごあいさつ

イタリア生活文化交流協会
会長 松本 城洲夫

本日は「友情のサビーナ・オーケストラ & 88人のホルン・アンサンブル」コンサートにお越しいただき、ありがとうございます。

このコンサートは、国際的な音楽家の交流と日本におけるクラシック音楽の普及をめざして企画したもので、アレッシオ、ビニーチョ、サビーノも日本の音楽家も、すべてボランティアによる参加です。そして運営も、オーケストラに参加している音楽家と、当協会の会員が手づくりですすめてきました。メンバー募集のチラシやパンフレットづくりから始まり、関係の団体や組織への働きかけ、集まった160人のメンバー一人ひとりの事務連絡、練習会場の確保とスケジュールの立案や進行管理、チケットの販売と宣伝などなど、これまでこんな事務仕事とはまったく縁のなかった人々が足まめに動き、手探りであっちこちに頭をぶつけながら、なんとか、今日のコンサートを迎えることができました。

不慣れなことが多かったために、皆様には不行き届きの点も多々お気付きになられるかと思いますが、どうぞご海容下さるようお願い致します。そして、こないわば素人集団を陰に陽に支えていただいた沢山の団体や個人の方々に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

さて、このコンサートは、3年前の2004年の夏に数人の日本の音楽家が、アレッシオ、ビニーチョ、サビーノたち3人の兄弟の自宅でいっしょにレッスンに取り組んだことがきっかけでした。レッスンのあと、近所の人たちが集まり、小さなコンサートが開かれました。その時、アレッシオが挨拶の中でこう言いました。「豊かな音楽は競争によって生まれるので

はなく、お互いを人間として尊敬し合い、助け合う心から生まれるのです。私は彼らがこの音楽の意味を深く理解したと確信しています。そして、これからもこのことを大切にして音楽活動を続けてくれることを期待しています」このとき、確かに今日に続く動機が生まれました。

1年後の2005年7月に3人が来日し、大阪市、豊中市、長野県山ノ内町、東京都などで、日本の音楽家とともにホルン・アンサンブル、管弦楽アンサンブルなどのコンサートを開き、今年10月にはアレッシオが「ルツェルン祝祭管弦楽団」公演のあと来阪し、日本の音楽家とたくさんのコンサートにも出演してくれました。こうして、「友情の輪」が着実に広がってきたのです。

アレッシオ、ビニーチョ、サビーノ、そして、父親のディエゴ・アレグリーニさんとの出会いは十数年前にさかのぼります。その間、近代化の歴史から続く個人の「自由・自立」の問題が日本人としての私自身の課題でもあることから、お互いの文化や歴史について随分議論し、私たちに何ができるだろうかと模索してきました。

アレッシオは数年前から、世界的な指揮者クラウディオ・アバドからの要請で「ベネズエラ青少年・児童オーケストラ」(注)にボランティアで参加するようになりました。そして10月にアレッシオが来阪した時に言いました。「いつか、日本の音楽家とベネズエラの音楽家と、イタリアやドイツやフランスなどヨーロッパの音楽家が“お互いの幸せを念願として”友情で結ばれたオーケストラをつくれないうか」

私は確信しています。アレッシオやビニーチョ、サビーノ、そして、今日共に音楽をつくった音楽家たちの想像力と勇気によって、近い将来かならずそんなオーケストラが誕生することを。

これからも皆様のご理解とご協力をお願いし、お礼の挨拶とさせていただきます。

(注)「ベネズエラ青少年・児童オーケストラ」

世界有数の石油産出国でありながら、国民の50%が貧困層を占めているベネズエラで、貧しい子ども達を犯罪と貧困から救うために、1975年から元文化大臣のホセ・アントニオ・アブレウ博士が創設した。

オーケストラのクラシック音楽に取り組むことによって、「子ども達の情緒、感受性、協調性と人格が形成され、社会の発展につながる」との信念で、これまでに25万人の児童・青少年が参加し、計210のオーケストラを擁する全国組織になっている。この活動に賛同したクラウディオ・アバド、サイモン・ラトル、マルタ・アルゲリッチらの音楽家が、オーケストラを支持している。

「友情のサビーナ・オーケストラ」その他のコンサート（抜粋）

■2007年 7月 アクア文化ホール



■2008年 11月 アクア文化ホール



■2010年 3月 アクア文化ホール

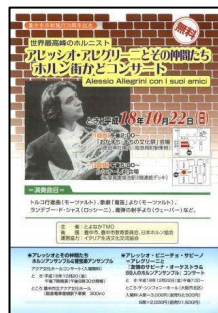


その他の国内でのコンサート（抜粋）

■2006年 10月 アクア文化ホール



■2006年 10月 原田神社



■2007年 8月 志賀高原



“ インターナショナル・サビーナ・オーケストラ ” 2007年9月 (イタリアでの活動)

■ ローマ、ザ・セプテンバー・コンサート 9月11日



■ ファルファ、大聖堂コンサート 9月14日



■ モントーポリの広場でのコンサート 9月15日

■ 小学校でのコンサート(ポッツォ・ミルテにて) 9月20日



■ イタリアの新聞に掲載される



■ ナポリターノ大統領官邸で 9月24日

プロジェクトについて説明するアレッシオ



“ インターナショナル・サビーナ・オーケストラ ” 2008年9月 (イタリアでの活動)

■ ローマ、“ザ・セプテンバー・コンサート 2008 ”
9月11日(アウディトリウム大ホール)

■ ヴェネツィア、マリブラン劇場でコンサート 9月13日



～ インターナショナル・サビーナ・オーケストラに参加した音楽家たち ～



<左から>

アレッシオ (ホルン/ルツェルン祝祭管弦楽団首席)
ヴィニーチョ (トランペット/カリアリ歌劇場オーケストラ首席)
サビーノ (ホルン/フリーランス)
マナラ (ヴァイオリン/ミラノスカラ座コンサートマスター)
サヴィツスキ (ピアノ/ソロ演奏家) アメリカ



<左から>

リッキ (ヴァイオリン/トリオ・アマデイ)
マルコ (ピアノ/トリオ・アマデイ)
ヨハネ (コントラバスモーツァルト・オーケストラ首席) ベネズエラ
ミカエル (ヴァイオリン/モーツァルト・オーケストラ) スロバキア

2008年9月 イタリアでのその他のコンサート



■ トリノ 9月12日



■ ホッジオ・ミルテートの広場 9月17日



■ ファルファ大聖堂 9月17日

■ 小学校でのコンサート 9月18日

小学校で、「G線上のアリア」や「となりのトトロ」「ソーラン節」などを演奏し、交流しました。



“ インターナショナル・サビーナ・オーケストラ ” 2009年9月 (イタリアでの活動)

■ リハーサルの様子



■ ポッジョミルテートの広場での 野外コンサート



■ ファルファ大聖堂 コンサート



■ テヴェレ川での 船上コンサート



■ コンサートのあとで



■ テヴェレ河畔でのコンサート

■ フェスタにて